## 卓　球・全日本大学対抗選手権

# 男女ともベスト8進出

## 男子ランク5位、女子7位

▶ チームの中心として奮闘した森田（左）と徳増

全日本大学対抗卓球選手権が8月7日から10日まで、広島市東区スポーツセンターで行われ、男女ともベスト8進出を果たした。日本学生卓球連盟による審査の結果、ランキングは男子が5位、女子が7位となった。

男子は予選リーグを全勝で1位通過。決勝トーナメントも森田翔樹（商3・青森山田高）、徳増信弥（経済3・杜若高）のシングルス、ダブルスにわたる活躍で1、2回戦を順調に勝ち上がったが、準々決勝で明大に惜しくも2―3で敗れた。

女子も予選リーグを1位で通過。高瑜瑶（商2・秀光中等教育学校）らが健闘し、1、2回戦を突破したが準々決勝で神戸松蔭女子学院大に2―3で惜敗した。

男子主将の下川裕平（経営4・明豊高）は「最低限の結果が残せたが、もっと上を目指せたという悔しさがある。3年次生を中心にベンチも含め、全員が健闘した。気持ちを切り替えて練習に励み、次の大会に備えたい」と力強く語った。

女子主将の杉本枝穂（文4・青森山田高）は「もっと上位を狙えたと思うが、自分が責任を果たせなかった。この反省を次に生かしたい。前半負けていた試合でも、力を合わせて後半につなぐことができたのは良かった」と語った。（久地浦　竜也・経済1）

## 準硬式野球・全日本大学選手権

# あと1本出ずベスト8

## エース田中の負傷響く

全日本大学準硬式野球選手権が8月29日から、香川県・サーパススタジアムなど4球場で行われた。関東地区代表の専大は準々決勝で中大に敗れ、ベスト8となった。

初戦は、関西地区代表・甲南大と対戦。初回に5番・菊池健太（経済4・専大北上高）がタイムリーを放ち、先制する。

▶ 加瀬将志（商4）の安打で追加点を奪った（甲南大戦）

▲ 力投した田中（撮影・佐山）

守りではエース・田中暁（経営3・鳴門工高）が要所を締めたピッチングで完封し、5―0で勝利を挙げた。

続く準々決勝の相手は同じ東都大学リーグの中大。初回に田中がランナーと接触し、足を負傷するアクシデントで降板したことも響き、序盤に3点のビハインドを許してしまう。攻撃陣は好機を作るもあと1本が出ず、0―3で敗れた。

林真吾主将（経営4・観音寺一高）は「チーム一丸となって戦うことができた。4年次生にとって学生最後の全国大会だったが、後悔していない。後輩には来年もこの場所に来て、戦ってほしい」と話した。これをバネに秋季リーグ戦では、春秋連覇を目指してほしい。（佐山　竜太・経済2）

## アーチェリー・関東学生個人選手権

# 男子・星が8位

## Kカップは2回戦進出

関東学生個人アーチェリー選手権の本戦が8月26日から28日まで、駒沢第一球技場で開かれた。専大からは予選を突破した男女7人が出場。男子の部で星達也（経営1・馬頭高）が8位に入賞したほか、佐伯朋哉（経営3・大宮開成高）、幾田将人（経営2・大宮開成高）、女子の部で水野藍那（文2・専大附高）がK・S・A・Fカップ（関東学生アーチェリー連盟杯、以下Kカップ）の出場権を獲得。

トーナメント方式のKカップは、星と幾田の2回戦進出が最高という残念な結果に終わった。

星は「調子は悪くなかったが、長距離が良くなかった。Kカップは残念だったが、インカレ予選に向けて調整したい」と語り、佐伯は「幾田は以前に比べて粘り強さが出てきて、それが良い結果につながった。水野も今後に向けて良い経験を積むことができたと思う」とチーム状態を話した。（新海　城生・経済4）

## 水　泳・日本選手権〈水球〉

# ベスト8に終わる

## 東日本リーグ戦は6位

日本選手権水泳競技大会の水球競技が9月5日から7日まで、兵庫県・尼崎スポーツの森プールで行われ、専大はベスト8に終わった。

今大会は昨年度の上位2チームと7月の予選会を突破した6チームによるトーナメント戦。専大は1回戦で全日体大と対戦し、5―22で敗れた。

また、8月24日まで、専大生田プールほかで行われた東日本水球リーグ戦は3勝2敗でAリーグ3位。Bリーグ4位とのたすき掛け戦に勝利し、同じくたすき掛け戦を制した全筑波大と5位決定戦に臨んだが、8―20で敗れ、最終順位は6位。

8月9日まで同会場で行われた関東学生水球リーグは3勝4敗で5位に終わった。次の大会は今月の日本学生選手権。専大は昨年度にシード権を獲得し、出場は決定している。この大会での奮起が望まれる。（庄司　亮介・文2）

## 国際大会出場選手

◇馬術部
松本　務（経営3・農業経営高）世界学生選手権（8月27日～9月2日＝ノルウェー・トロンハイム）

◇ローラースケート部
中村　昌照（商3・浦和南高）マカオ国際ローラーホッケー大会（8月27～31日＝マカオ・チャイナ）

## Sports カレンダー

◇ゴルフ部
▽関東学秋季対抗戦
【男子】9月25、26日（こだまゴルフクラブ）
【女子】9月17、18日（那須ゴルフ倶楽部）

◇サッカー部
▽関東学リーグ戦（後期）
9月6日～11月23日（国立西が丘サッカー場ほか）

◇相撲部
▽全日本学生個人体重別選手権
9月21日（堺市大浜公園相撲場）

◇テニス部
▽関東学リーグ戦
【男子・2部】9月12～27日（各大学テニスコート）
【女子】9月16～29日（埼玉グリーンテニスプラザ）

◇馬術部
▽関東学生選手権
9月26～28日（JRA馬事公苑）

◇バスケットボール部
▽関東大学リーグ戦
9月6日～10月19日（代々木第2体育館ほか）
▽関東大学女子リーグ戦
8月30日～10月19日（代々木第2体育館ほか）

◇フェンシング部
▽関東学生選手権
9月29日～10月3日（駒沢公園屋内球技場）

◇ヨット部
▽関東学生選手権
9月27、28日（葉山沖）

## キャンパス情報

### 多摩区3大学コンサート

吹奏楽研究会が出演

多摩区・3大学連携協議会主催の「2008多摩区3大学コンサート」が10月3日、川崎市多摩市民館ホールで行われる。本学からは吹奏楽研究会「ウィンドアンサンブル」が出演し、「ディズニー・ファンテリュージョン」「ビリー・ザ・キッド」などを演奏する。17時45分開場、18時15分開演。入場無料。

### たまたま子育てまつり

心理教育相談室が協力

「第6回たまたま子育てまつり」が9月21日、多摩区総合庁舎で開かれる。本学の心理教育相談室も「子育て個別心理相談」「親と子のコラージュ体験」などを企画し、臨床心理士や大学院生が協力。開催時間は9時45分～15時（同相談室の企画は10時～14時30分）。

### 奨学生相談会開催のお知らせ

学生部・学生生活課では、奨学生（専修大学奨学生・日本学生支援機構奨学生・留学生奨学生など）を対象とした相談会を開催します。「環境の変化に対応できず、学業に専念できない」、「授業についていけない」など、どのような内容にも対応します。希望者は直接会場へ。

【生田】10／6（月）～17（金）、12時20分～13時（土・日除く）、41号教室

【神田】10／6（月）、10（金）、12時20分～13時、学生生活課

### 懸賞論文・文芸作品コンクール

提出期間は9月26日まで。詳細はホームページ「学生生活情報」で。

### 神田鳳祭2008

【テーマ】一期一会 Greatest Moment 2008

10／11（土）・12（日）

神田キャンパスで開催

http／／kandaohto risai.daa.jp/

### 夏の夜に"癒やし"を

生田緑地サマーナイトミュージアム

8月23、24の両日、生田緑地内の3施設を中心に行われた夏祭り「生田緑地サマーナイトミュージアム」に、本学から2団体が参加。ヒーリングLIVEステージで「MJAブルーコーラル」がジャズ＝写真、「グリークラブ」が男声合唱を披露し、会場を沸かせた。

## New Ground　新しい見方 ㉗

佐藤　宏紀　（法2・ジャーナリズム研究会）

### 「後に残る痕に」

華々しく開催された北京オリンピック。選手たちの活躍に大いに興奮させられ、また感動をもらった。時差がほとんどないのでリアルタイムで応援していた人も多いだろう。しかし、その裏では新疆ウイグル自治区ではテロが起き、ロシアとグルジアが武力衝突、チベットで暴動が発生し市民が銃殺されていた。マスコミの過剰なまでのオリンピック報道と比べると、これらは扱いが軽かった。

もしメディアが同じくらいの時間をこれらの問題に割いたとして、果たしてオリンピックほどの関心が国民の間に生まれただろうか。水泳やソフトボールの視聴率を超えただろうか。残念ながらそれはないだろう。メダルの輝きに生命の輝きがかき消されたようにも思え、知っていながら目を向けなかった自分に多少の罪悪感を感じた。決して選手たちに罪があるわけではないが、インタビューで自分のことだけでなく「せめて一言くらいは…」と、求めてしまうのは酷な話だろうか。だが、「平和の祭典」とも呼ばれるオリンピックに出場するからには「記録」だけでなく、「心」もその国の代表であるということを忘れてはいけないはずだ。

オリンピックは記録や技術を純粋に競うものなので政治を持ち込むなと言う人がいる。一方で、もともと政治的なものであり、政治とは切り離せないものだとする人もいる。いったいなぜオリンピックは開催されるのか。名誉はなぜ与えられるのか。選手たちだけでなく、皆がほんの少しでかまわないので本質について考えてほしい。メダルを獲得し、世界記録を更新するだけがオリンピックではないはずだ。

選手が誇らしげに掲げるメダルが、赤く染まられないように真剣に考える時期が来たのかもしれない。